

東日本ユニオン大宮 ラ・マヒストラル

JR東日本労働組合
大宮地方本部
発行責任者:渡辺 純
2019年11月5日 No.27

2019年度 年末手当スタート

要求満額獲得に向けて

トライ!



東日本ユニオン 2019 年度年末手当要求

1. 「基準内賃金の3.4ヶ月分」とし12月13日までに支払うこと
2. 55歳以上の社員に一律5万円の加算をすること
3. グリーンスタッフの精勤手当に一律5万円の加算をすること

東日本ユニオンは11月1日「2019年度年末手当に関する申し入れ」の第一回団体交渉を開催し、組合側より要求の「趣旨説明」を行いました。

会社業績では「第2四半期決算」が「増収増益」で過去最高となりました。東日本ユニオンは「安全・安定輸送」や「収入の確保」に向けて奮闘しているJR労働者に対する正当な成果配分を求めるとともに、10月に実施された消費税増税による生活の苦しさを経営側に訴えました。

私たち大宮地本が中心となり、東日本ユニオン全組合員でスクラムを組んで闘うぞ!



年末手当第2回団体交渉
11月11日(月) 14時～
要求満額にトライ!

東日本ユニオン NEWS
年末手当交渉スタート!
東日本ユニオンは11月1日「2019年度年末手当に関する申し入れ」の第一回団体交渉を開催しました。
団体交渉では、組合側より要求の「趣旨説明」を行い、対する経営側は現状説明として「業績動向」「中長期的な課題」などを示しました。

＜東日本ユニオン・要求趣旨（要約）＞
①当社の業績は「2019年度第1四半期決算」「第2四半期決算」と併せ、連結決算ともに増収増益となり、第2四半期決算としては営業収益、運送収入、前半期純利益で過去最高を更新している。上半期においては、4月に公表した第2四半期の業績予想から28億円の増収を達成している。その大きな要因である「乗客収入」は、4464億円と前年同期比で134億円となり、本業の体力を十分実業利益は前年比で48億円、結果利益が465億円、前半期純利益が458億円と、4月時点での「増益」予想に届くことができた。業績予想を大きく上回る収入と利益をあげた成果は、すべてのJR労働者が「安全・安定輸送」の「国の重要なサービス」を無事故・無遅延で提供できているJR労働者の努力がある。

②中央15号および中央18号、さらに10月25日の大雨によって、鉄道線や車両などが、事故などで大きな被害を受けた。半途中断の増加による影響など、会社の側面から顧客を驚かせた被害発生として被害を受けている。JR東日本の労組には乗客の被害を一掃し、安全を確保してきた歴史がある。鉄道は早期復旧と地域の復興に向け、これまで以上に労組の力を合わせて取り組む決意であることを、あらためて明らかにしたい。

③本年10月1日に消費税率が10%に引き上げられたほか、原油価格の高騰は当社の「動力費」に大きな影響を与えることは十分認識しているが、業績に与える影響だけにとどまらず、生活必需品や生活必需品など、私たちの生活にも大きな影響を与えている。JR労働者の生活は現金給与や半分の増給だけでは足りず、また、一部の労働者で確定している影響がある。6月の夏季手当交渉において、社員の前年増給は40万を越しており「生活費制約の発生」や「持ち家の借入」によって高額の住宅ローンを支えている世代もある。JR労働者の生活に対する安心感が重要である。

④「基準内賃金の3.4ヶ月分」は、JR労働者の努力に対する成果配分として適切なべきとした要求である。あわせて55歳以上の社員は年齢増進、調整賃金を確保されているが、賃金削減の増加、労働した技術やスキルに相応しい賃金を確保するための努力を続けている。グリーンスタッフも労働環境が不安定な状況下で、賃金の確保を求めている。JR東日本の要求として求めた努力を続けている。そうした努力を認め、一律5万円の加算に賛同する経営側が経営側にはある。要求に対する賛同率は十二分は可能である。